

# スマート林業プロジェクト

## 森林林業を「核」とした「地方創生」の実現を目指して

### 戦略目標<10年後> (2028年度まで)

	【プロジェクト以前】 2004(H16)	⇒	【現状】 2017(H29)	⇒	【当面の目標】 2024(R6)	⇒	【10年後の目標】 2028(R10)
■ 県産材の生産・消費量	17万m <sup>3</sup>	⇒	37.5万m <sup>3</sup>	⇒	60万m <sup>3</sup>	⇒	70万m <sup>3</sup>
■ 新規林業就業者数	一人	⇒	352人	⇒	546人	⇒	800人

### 実現に向けた行動計画<4年間>(2022年度まで)

#### 川上 (林業生産)

##### 森林施業

森林サイクルの確立と施業地の拡大に繋げるため、森林所有者の様々な意向に対応できる徳島型の森林経営管理体制を構築します。  
**素材生産量** 【R4】 56.3万m<sup>3</sup>  
**「とくしま森林バンク」の創設** 【R元】 創設



##### 生産基盤

本県の複雑で急峻な地形に適応するため、計画段階から現場施業においてICT等を活用した効率的な生産基盤を構築します。  
**ICT等技術を活用した計画技術の開発・実装** 【R4】 開発・実装

##### 担い手

新規就業者の確保に加え、知識や経験に応じた段階的な研修の実施や、林業事業体の経営基盤や労働安全対策を強化します。  
**新規林業就業者数** 【R4】 486人  
**「フォレストキャリアスクール」の開講** 【R2】 開講



#### 川中 (木材加工)

##### 加工体制

製材工場の連携や加工体制の充実を図るとともに、付加価値の高い「徳島すぎ」ブランドを強化します。  
**人工乾燥材出荷割合** 【R4】 48%  
**JAS認定工場** 【R4】 (累計)20工場



##### 流通体制

川上から川下を結ぶ効果的なサプライチェーンを構築し、低コスト化と物流体制の強化を図るとともに、木材団地の整備を進めます。  
**ログ・ポーター増員による物流体制の支援** 【R4】 支援  
**「サプライチェーンモデル」の構築** 【R4】 構築



##### 開発・実装

これまでの研究成果の実装とニーズに応じた商品開発に、産・学・民・官が連携して取組みます。  
**異業種連携による商品開発と研究成果の実装** 【R4】 推進  
**新商品開発数** 【R4】 5品目

#### 川下 (木材利用)

##### 県内需要

「県産材利用促進条例」に基づき、建築物の木造化・木質化と、「とくしま木づかい県民会議」を中心に木づかい運動を推進します。  
**県産自給率** 【R4】 70%  
**県内の県産材消費量** 【R4】 18.3万m<sup>3</sup>



##### 木育

全国木育サミットのレガシーを継承するため、「県版木育サミット」の開催や木育拠点を整備し、県産材の魅力発信を加速します。  
**県版木育サミットの開催** 【R元】 毎年開催  
**新たな木育拠点の開設** 【R3】 開設



##### 県外・海外

大消費地での販売促進活動や県産材と大工技術を合わせた「まるごと輸出」などにより、県産材の需要拡大を図ります。  
**県産材の県外出荷量** 【R4】 30.6万m<sup>3</sup>  
**輸出相手国との技術交流者数** 【R4】 (累計)800人

\* QRコードを読み取って下さい。県内の林業情報がご覧頂けます。

# 「スマート林業プロジェクト」の模式図

## 「スマート林業」の展開



主伐対応の「新林業生産システム」

コンテナ苗

苗運搬

適正な素材生産

航空レーザ測量

架線集材機開発

伐採の機運の醸成

造林・保育の負担軽減

新たな森林管理システム  
とくしま森林バンク

自動走行運搬

路網整備の推進

サテライト土場の設置

施業の集約化

担い手の育成

フォレストキャリアスクール

- ・小、中、高、大学生
- ・とくしま林業アカデミー
- ・森林女子
- ・アクティブ・シニア

労働安全対策

事業体の経営基盤強化

フォレストサイエンスゾーン

ICTを活用した  
「需給情報」の共有化

商品開発

サプライチェーン  
モデルの構築

流通備蓄システムの構築

加工体制の充実

JAS COC

高次加工施設

燃料用加工施設

「徳島すぎ」の魅力発信

大消費地での販売促進

非住宅での利用推進

輸出の拡大

木造に秀でた人材育成

木育拠点の開設

まるごと輸出

木造建築学校

とくしま木育サミット